

# 教育委員会会議録（12月定例会）

<u>日 時</u>	平成29年12月22日（金） 午後1時30分から午後2時25分まで	
<u>場 所</u>	日立市役所 305号会議室	
<u>出席委員</u>	教育長 教育長職務代理者 委 員	中山 俊恵 中村 雅利 朝日 華子
<u>欠席委員</u>	委 員 委 員	上村 由美 土屋 静治
<u>委員以外の出席者</u>	教育部長 総務課長 学校施設課長 学校施設課課長（新調理場建設担当） 学務課長 学務課課長 生涯学習課長 スポーツ振興課長 指導課長 指導課課長 郷土博物館長 記念図書館長（兼）視聴覚センター所長 教育研究所長 官田調理場長 保健福祉部子ども局子ども施設課長 企画員 総務課副参事（兼）庶務係長 総務課課長補佐（兼）計画財務係長 総務課主幹 総務課主幹	鈴木 透 清水 透 大平 利彦 佐藤 行男 内山 信弘 木下 俊雄 飯塚 優 志藤 忠博 折笠 良平 佐川 章子 助川 正則 鈴木 士郎 勝間田 忠彦 荒川 敏明 大窪 啓一 佐藤 政臣 中村 大介 酒地 康彦 吉野 成実 宇佐美 亮

## 議 事

### 報 告

報告第12号 教育委員会11月定例会の会議録について

### 議 案

議案第41号 日立市教育委員会事務局処務規則の一部を改正する規則の制定について

### その他

- (1) 平成29年第4回市議会定例会について
- (2) 平成29年度日立市優秀教職員等褒賞事業の被褒賞者について
- (3) 第64回日立市教育論文応募状況及び審査結果について
- (4) 平成30年度日立市立幼稚園等の園児募集の結果について
- (5) 教育委員会関連行事等について
  - ア 2018年日立市成人祝について
  - イ 家庭教育講演会について
  - ウ 第18回日立さくらロードレースの出場者募集について

# 会 議 の 概 要

## 1 開 会

教 育 長            それでは、只今から12月の教育委員会定例会を開催します。  
本日は、上村委員、土屋委員が、都合によりご欠席となります。  
また、傍聴希望者が2人おります。  
傍聴を認めてよろしいでしょうか。

全 委 員            結構です。

(傍聴人入室)

## 2 報 告

報 告 第 1 2 号      教育委員会11月定例会の会議録について

教 育 長            それでは、まず、報告第12号について御意見を伺います。  
いかがでしょうか。

全 委 員            特にありません。

教 育 長            それでは、本件については、承認されました。

## 3 議 案

議 案 第 4 1 号      日立市教育委員会事務局処務規則の一部を改正する規則の制定  
について

教 育 長            それでは次に、議事に移ります。  
議案第41号について、総務課長から説明をお願いします。

総 務 課 長            学務課において、学校給食に関する事務を所掌することとするため、  
本規則を制定するものです。

日立市教育委員会事務局処務規則のうち、別表学務課の項、第12号中「給食費の徴収及び滞納整理」を「学校給食」に改めます。  
なお、この規則は、公布の日から施行することとします。

学務課の分掌事務は、第1号から第15号まで規定されていますが、第12号に規定する「給食費の徴収及び滞納整理に関すること」を、「学校給食に関すること」に改めるものです。

現在、学校給食に関する事務は、食材の発注や給食の調理など、調理場で行われる日常業務については、学校給食共同調理場が行い、学校との連携が不可欠となる給食費の徴収及び滞納整理については、学務課が所管し、プロジェクトである新調理場の建設については、学校施設課内に設置した「新調理場建設担当」で事務を進めています。

しかし、近年、調理業務の民間委託をはじめ、食物アレルギー対応給食の提供や、給食の質の向上など、学校給食に関する課題は増え、また、多様化していることから、教育委員会事務局内に、学校給食に関する事務を掌握し取りまとめる課所として学務課を位置付け、諸課題に迅速かつ的確に対応しようとするものです。

教 育 長     それでは、議案第41号について、可決することによろしいですか。

全 委 員     異議なし。

教 育 長     議案第41号については、原案可決と決しました。

## 4     そ の 他

### (1) 平成29年第4回市議会定例会について

教 育 長     続きまして、その他に移ります。  
                  その他(1)について、教育部長から説明をお願いします。

教 育 部 長     平成29年第4回市議会定例会について、説明します。  
                  会期は、平成29年12月7日から20日までの14日間です。  
                  教育委員会関連の質問及び答弁の概要についてですが、一般質問と議案質疑について、それぞれ1人の議員から質問がありました。  
                  まず、一般質問については、ひたち未来の伊藤 智毅 議員から、教育政策について2点の質問がありました。

                  1点目は、日立特別支援学校の運営についてということで、県への移管に関する経緯と現状や、市立存続の意思決定と有資格者の優先配置、施設整備の基本的な考え方についての質問です。

                  これに対しては、教育長が答弁されました。

                  まず、県への移管についてですが、これまで県と協議を重ね、平

成27年度からは毎年要望活動を行っており、特別支援学校教諭資格取得者の優先配置と併せて、今後も改めて本市の要望を伝えていく旨を述べました。日立特別支援学校は、県立の特別支援学校とは異なり、一般の小・中学校と同様の扱いとされているため、県立の特別支援学校のように、県の裁量により有資格者を配置することが難しいという状況がありますが、配置について引き続き要望していきます。

また、施設整備についてですが、まず、日立特別支援学校は、本市の特別支援教育のシンボリックな施設であり、市内のセンター的な機能を有するなど、その存在価値と意義は極めて大きいものと考えています。現在の校舎を昭和50年に建設し、その後に増築を重ねながらバリアフリー化や耐震補強などの整備を進めてきましたが、老朽化が進んでおり、児童生徒のより良い生活環境、学習環境を確保するためには、大規模な改修や建て替えなどが必要な時期に来ていると認識しています。近年の課題である児童生徒数の増加に伴う当面の対応として、来年度に向けてプレハブの校舎を増築することとしていますが、県への移管に関する今後の情勢等を見据えながらも、教室の不足等に対する抜本的な対策を講じる観点から、校舎の建て替えについて検討していくといった旨を答弁されています。

2点目は、生徒の制服等についてということで、児童生徒の制服やジャージ、運動靴等の購入に際し、保護者の負担金額に差が出ているが、課題認識や現状把握のための調査実施を含めた教育委員会としての考え方について伺うという質問でした。

これに対しては、日立市立の中学校16校で中学校の制服についての現状を調査したところ、2校では取扱店が1者に限定されているが、他の14校では取扱店が複数あることから、保護者が購入先を選択できる状況にあるため、事業者間にも一定の競争原理が働いており、公正取引委員会が指摘するような一定の店が独占している状況にはないものと考えている旨を述べました。

また、学校で使用するジャージや運動靴等については、学校ごとに個性と特色を出していますが、仮に仕様を統一した場合、市内体育大会等で学校の区別が難しくなるなど、不便が生じることも想定されることを述べた上で、いずれにしても、保護者負担の軽減を図る観点から、改めて市内取扱店の状況や、学校の関わり方などについての現状把握と検証を行う必要があると考えており、アンケート調査等により学校現場や保護者の声を聴きながら取り組んでいく旨を答弁しました。

次に、議案質疑については、日本共産党の小林 真美子 議員から、就学援助制度についての質問がありました。

質問は、就学援助制度のうち、新入学児童生徒学用品費等に係る小中学生それぞれの支給額単価の引上げ額、支給時期及び支給人数

について伺うというものです。

まず、支給額単価についてですが、小学生は20,470円から40,600円に、中学生は23,550円から47,400円に引き上げます。

また、支給の時期は、入学前の3月中に前倒しして支給することとなります。

さらに、入学前支給の対象者数については、小学生約60人、中学生約90人を見込んでいることを答弁しました。

続いて、教育福祉委員会についてですが、教育委員会に関連する8つの議案について、全て承認をいただきました。

**委員** 生徒の制服等について、日立市立の中学校16校のうち2校は取扱店が1者に限定されているということですが、その理由は何ですか。

また、ジャージや運動靴の仕様が学校ごとに決められているのは仕方ないと思いますが、部活動で使用するウインドブレーカーなどを統一して購入させる場合もあると聞きます。その際、どのように選定し、購入を求めているのでしょうか。

**学務課長** 1点目の制服に関する質問についてですが、特別支援学校を含めた16校のうち2校は特殊なブレザータイプの制服であることから、取扱店舗が1店舗に限られているという状況にあります。これについては、年間の販売数が20着程度と少ないこともあり、ほかの店舗の参入が見込める状況にありません。なお、価格についても、ほかの制服と同程度となっています。

2点目の部活動のウインドブレーカー等については、現在、把握していませんが、保護者の負担軽減を踏まえ、今後のアンケート等で実態を把握しながら、適切に購入できるように、指導していきたいと考えています。

**委員** 就学援助費の支給時期を前倒しにするということは、とても素晴らしい取組だと思います。

茨城県内では、どのくらいの市町村が入学前に支給しているのでしょうか。

**学務課長** 県内で、平成29年度の入学者を対象として実施したのは、守谷市のみです。

なお、平成30年度に向けて支給を検討しているのは、県内44市町村のうち、本市も含め、少なくとも29市町村あります。

**委員** 経済的な部分だけではなく、精神的な面でも負担が軽減されるこ

とだと思しますので、できるだけ早く、多くの方に周知していただければと思います。

**学務課長** 入学前支給については、来年1月20日号の市報に掲載するほか、新小学1年生に対しては幼稚園や保育園に、新中学1年生には小学校を通して「お知らせ」のチラシを配り、保護者に周知する予定です。

## (2) 平成29年度日立市優秀教職員等褒賞事業の被褒賞者について

**教育長** それでは次に、その他(2)について、学務課長から説明をお願いします。

**学務課長** 平成29年度日立市優秀教職員等褒賞事業の被褒賞者について、説明します。

この事業は、本市教育の振興発展に寄与した学校及び教職員を褒賞することにより、教職員の勤務意欲を向上させるとともに、先進的な実践の共有化を図り、もって本市教育の振興を図るため、平成22年度から実施しているものです。

対象となるのは、学校の部が市立小学校、中学校、特別支援学校及び幼稚園で、教職員の部は、今申し上げた学校・幼稚園に勤務する教員及び職員とし、常勤、非常勤及び臨時職員を問わないこととしています。

授賞者については、日立市優秀教職員等褒賞規程に基づく各分野で、特に顕著な成果を上げている学校・教職員について、教育委員会事務局の部課所長で構成する審査委員会が審査及び内申し、教育長が決定したものです。

今年度は、学校の部では小学校5校、中学校4校、そして、小中一貫校である中里については小・中学校を一括して1校と捉え、計10校を褒賞するとともに、教職員の部では19人を褒賞します。

今年度の特徴としては、学校の部では、体力向上への取組による褒賞が昨年度の2件から4件に増えていることに加え、東小沢小学校における「地域と一体となった和太鼓の創作」や、坂本中学校における生徒会を中心に立ち上げた「いじめ撲滅委員会」などの特色ある取組が高い評価を受けたことが挙げられます。

教職員の部では、学校の環境整備に誠実に取り組んでこられた用務員が6人、特別支援教育の推進に日々尽力された教諭が4人、健康教育・保健指導に熱心に取り組まれた養護教諭が2人など、日頃の指導や業務に地道に取り組む姿が各学校の校長先生に評価され、御推薦をいただいた方が多かったことです。

なお、表彰は教育長名で行い、表彰式は1月18日（木）の第2回学校長・園長連絡会において執り行います。

### (3) 第64回日立市教育論文応募状況及び審査結果について

**教 育 長** それでは次に、その他(3)について、指導課長から説明をお願いします。

**指 導 課 長** 第64回日立市教育論文応募状況及び審査結果について、説明します。

まず、応募総数ですが、平成29年度は16編で、そのうち個人が14編、共同が2編です。応募者総数は44人でした。

学校種別の応募状況は、幼稚園が1園1編、小学校が7校12編、中学校が3校3編、特別支援学校はありませんでした。

応募者の年齢構成としては、20代が最も多く7名となっています。

研究分野の内容は、国語、社会、算数・数学、理科などの7つの教科と1つの領域、そして幼児教育です。

今年度の傾向として、応募総数が昨年度より13編減っています。また、20代の教員が、応募者総数の4割を占めています。

特色としては、若手が意欲的に論文を応募したこと、そして、学校の課題や次期学習指導要領を見据えて研究したことをまとめたものが多く見られたことです。

課題は、2点あります。

まず、応募意欲の高揚です。あまり難しく考えずに、日頃の実践をまとめるという意識を広める必要があると考えています。

また、論文の体裁をデータ化するなど、普段の業務をこなしながら論文を仕上げるという負担を軽減する取組なども必要であると考えています。

続いて、入賞論文についてです。

平成29年度の入賞論文は、全部で8編です。内訳は、最優秀1編、優秀2編、優良5編です。

最優秀は、滑川小学校の宮田校長先生をはじめ、全職員で取り組んだ国語科の実践をまとめたものです。

優秀賞2点は、成沢小学校の西野純平先生の社会科の実践、そして、豊浦小学校の山形有紀先生の算数科の実践です。

**委 員** 昨年と比べて13編少なくなったということですが、その原因は何かでしょうか。教職員の多忙化も影響しているのではないかと危惧しています。

子どもの学びのためには、先生方が研究的な視点を持って授業の質を高めることが大事ですし、そういった意味でも、教育論文を作成するということの意義は大きいと思います。

**指導課長** 詳細な検証はしていませんが、現在考えられる原因として、3点挙げられます。

1点目は、次期学習指導要領が確立され、現在が学習内容の移行期に入る過渡期であるということです。

2点目は、従来、論文を応募する年代の多くは40歳前後でありましたが、現在のその年代層が、非常に薄い状況になっているということです。

3点目は、中学校の応募が少なく、共同で作成した学校も少ないということです。これはある意味、学校の忙しさを表しているのではないかと考えています。

また、指導課としても、昨年度に比べ、学校長会や教育研究会との連携が十分ではなかったと考えておりますので、次年度に向けて、協力体制をつくっていきながら、応募数を増やしていきたいと思っています。

さらに、今年度末までに教育論文に関する調査等を行い、どのような形で実施すれば応募しやすいのかについて、明確にしていきたいと考えています。

いずれにしても、教職員の教育研究を進めることで、本市の教育発展、向上に資するという目的を達成するためには、応募数を増やしていかなければならないと考えています。

**教育長** 教育論文は、応募が多い年と少ない年がありますが、少ない原因をよく調べ、少ない中でも、応募してきた方への対応をしっかりとしていきたいと思っています。

#### (4) 平成30年度日立市立幼稚園等の園児募集の結果について

**教育長** それでは次に、その他(4)について、子ども施設課長から説明をお願いします。

**子ども施設課長** 平成30年度日立市立幼稚園等の園児募集の結果について、説明します。

9月の教育委員会定例会において、平成30年4月入園の公立幼稚園・認定こども園の募集計画について説明しましたが、その結果について報告するものです。

みやた認定こども園を含む13園について、4歳児が108名、

5歳児が2名の計110名の入園希望がありました。

公立幼稚園への入園希望者の減少は続いており、今回も4歳児の応募が10名を超えた園の方が少なく、超えたのは、大沼、田尻、櫛形、みやた認定の4園となりました。

進級児を含む平成30年4月就園予定人数は267名で、前年比101名、27.4%の減少となっています。

なお、私立幼稚園についても同時期に受付を行っており、今年度4月当初1,603人の園児数であったところ、30年4月について、現段階では1,599人を見込んでおり、おおむね横ばいとなっています。

10人未満の各園については、それぞれ申込の保護者に対し入園予定人数を伝え、少人数でも入園の意思があることを確認しています。

なお、南高野については、4歳児の応募が1名でしたが、このお子さんは、支援を必要とするお子さんで、大沼幼稚園にじ組への通級を希望しています。今年度、南高野幼稚園の園開放行事「遊びのつどい」に参加しており、南高野幼稚園に慣れています。入園する園の選択に当たり他の民間幼稚園等も見学されましたが、どの園でも泣きじゃくりお母さんのそばを離れないことから、保護者の希望を考慮し、30年度については、南高野幼稚園で介助員を付けて5歳児と一緒に生活しながら、大沼幼稚園のにじ組に通級し、大沼幼稚園の生活に慣らして、5歳進級時に大沼幼稚園へ転園することとしました。

公立幼稚園の園児減少の要因としましては、働く女性の増加による幼稚園から保育園への移行のほか、保育料の引上げが大きな要因となっていると考えています。

平成27年4月の子ども子育て支援新制度への移行に合わせ、幼稚園の授業料は、保育園と同様に、公立・私立同額となり、所得階層が最も高い階層の場合、6,800円から19,000円に段階的に引き上がるようになっていきます。引上げは平成29年度から始まったため、この保育料引上げによる影響が大きいと考えており、現実に保護者の方からもそのような声をお聞きしています。

幼稚園希望者が減少する一方で、保育園希望者は引き続き増加しており、本年4月在園児数は、前年比8.2%、168人増の2,229人、待機児童はゼロでスタートしましたが、月を追うごとに入園希望者が増加し、12月1日現在43人の待機者が出ています。特に0歳児からの保育希望が多く、0歳児の待機が22人となっています。

少子化が進行する中で、幼稚園教育においては一定規模の集団活動を確保する環境が不可欠でありますことから、公共施設マネジメントの基本的な考え方を踏まえ、今回の募集の結果、5歳児、4歳

児共に園児数が10人未満で、園舎の耐震改修が必要な園については、原則として翌年度の園児募集は行わない方向で、今後調整していきます。

## (5) 教育委員会関連行事等について

**教 育 長** それでは次に、教育委員会関連行事等について、説明をお願いします。

### ア 2018年日立市成人祝について

**生涯学習課長** 2018年日立市成人祝について、説明します。

日時は、平成30年1月7日(日)の午後1時からで、今回から、池の川さくらアリーナを会場に開催します。

対象者は、平成9年4月2日から平成10年4月1日までに生まれた方で、11月1日現在の本市住民基本台帳登録者及び登録外で問合せがあった方を含め、12月19日現在で2,009人となっています。

主催は、市内の公立中学校、高校から推薦いただいた新成人33人からなる実行委員会で、8月下旬から準備を進めてきました。

今年度のテーマは、「縁(えん) ～繋がりを大切に～」です。このテーマについては、「20年間支えてくれた周りの人との繋がりを改めて感じ、大切にしていかなければいけないという思い」から設定されたものです。

成人祝の内容ですが、実行委員長の挨拶や来賓からの祝辞等の記念式典のほか、アトラクションとして参加者を対象とした抽選会を行い、その後、出身中学校ごとの記念撮影を行い、撮影した写真を後日お送りすることで記念品としています。

来賓については、日立市長、市議会、教育委員会などの方々に加え、中学校時代の担任など、思い出の先生方を招待する予定です。

過去の参加状況から、今回も1,500人を越える新成人が集う成人祝となるものと考えています。

なお、当日は日立駅から池の川さくらアリーナまで、通常の運行に加え、2本増便して路線バスを運行する予定です。

### イ 家庭教育講演会について

**生涯学習課長** 家庭教育講演会について、説明します。

まず、趣旨としましては、家庭教育のあり方についての理解を深め、本市における家庭の教育力の向上を図るため、子育て中の方や教育関係者を中心に講演会を行うものです。

主催等ですが、この事業は、日立製作所日立家庭教育センターが閉鎖されたことに伴い、平成27年4月に、公益財団法人日立財団から、引き続き日立市において「子育て」に関する支援を行い、地域に貢献したいとの申し出を受け、行っているもので、日立財団と市の共催事業として実施するものです。

次に、講演会の概要です。

平成30年1月28日（日）、午前10時から11時30分まで、日立シビックセンター音楽ホールで行います。

講師は、日本中の子どもたちと体当たりで生きてきた「夜回り先生」でおなじみの、水谷 修 先生です。

演題は、「夜回り先生からのメッセージ 子育てで一番大切なこと」です。

定員は600名で、現在、若干余裕がありますが、託児については定員を超えている状況です。

#### ウ 第18回日立さくらロードレースの出場者募集について

スポーツ振興課長 第18回日立さくらロードレースの出場者募集について、説明します。

開催日は、平成30年4月8日（日）です。

会場、種目、参加料などは、昨年と同様です。

申込期間は、来年の1月5日から1月31日までです。

#### 5 次回の教育委員会の日程について

教 育 長 それでは、次回の教育委員会の日程について、総務課長からお願いいたします。

総 務 課 長 平成30年1月25日（木）午後1時30分から、日立市役所305号会議室で開催予定です。

#### 6 閉 会

教 育 長 それでは、以上をもちまして、教育委員会12月定例会を終了します。

以 上